

広陵町教育委員会だより

令和2年度 12月号 12月15日 発行

広陵町教育委員会

北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001 文責・編集 植村



**我が背子と ふたり見ませば いくばくか
この降る雪の 嬉しくあらまし**

12月の万葉集 万葉集 巻8-1658 光明皇后
(好きな人と二人で降る雪を見るのであれば、どんなにか楽しいものであるのだろうに)

「ありがとう」という感謝の言葉を！

12月も半ばとなり、本格的な冬の到来を迎えています。空の空気が澄むこの時期、夜の空を見上げれば、冬の星座の代表である砂時計状の形をしたオリオン座が南東の空にくっきりと見えます。また、オリオン座の肩の位置にあるベテルギウスとその左斜め下に見えるおおいぬ座のシリウス、その左斜め上に見えるこいぬ座のプロキオンが形作る冬の大三角形を楽しむことができます。午後9時を過ぎれば冷えがきつくなりますが、戸外で一度南東の空を見上げてみてはどうでしょうか。

11月中旬より第3波に入った新型コロナウイルス感染症の状況は一波、二波を遙かに超える感染者の数となっています。先日の校長会でも、再度、衛生管理マニュアルに基づく防止対策の徹底とさらには、児童生徒・保護者等の家族に陽性者が出たときの対応等、対策の強化について指示させていただきました。今一度、学校・園はもちろんのこと、ご家庭や地域の皆さんも含めて、気を緩めず、3密の回避と手洗い・うがい・マスク着用等の感染防止対策に努めていただきたいと思います。

ところで、皆さんは「ありがとう」の言葉にはどのような力があると思われませんか。「ありがとう」と言うとき、言われたとき、その言葉に込められた思いとはどのようなものでしょうか。

ある道徳の教科書に「ありがとうの不思議な力」という題材があります。そこに掲載されている詩は、私の好きな谷川俊太郎さんの詩で、かつて学校だよりで採り上げたものです。これを読まれてどのように感じられたでしょうか。

ありがとうの深度 谷川 俊太郎

心ここにあらずで
ただ口だけ動かすありがとう
ただ筆だけ滑るありがとう
心得顔のありがとう

心の底からこんこんと
泉のように湧き出して
言葉にするのももどかしく
静かに溢れるありがとう

気持ちの深度はさまざまだが
ありがとうの一言に
ひとりひとりの心すら超えて
世界の微笑がひそんでる



「ありがとう」の言葉の深度、言い換えれば、心が伴わない薄っぺらい口だけの言葉なのか、それとも心の底からわき上がる本当の感謝の言葉なのかは別として、「ありがとう」の一言は人々を笑顔にする言葉であることに違いはないと思います。

生まれてきた赤ちゃんを抱きしめたお母さんが 「生まれてきてくれて ありがとう」

コロナ禍の中、患者さんたちに、精一杯の対応をしている医療従事者の皆さんに「ありがとう」

大震災や豪雨で家を失い、深い悲しみの中にある人々が、救助の人やボランティアの人々に向けて口にした「ありがとう」の言葉に世界中から驚きの声が上がりました。

電車の中で、恥ずかしそうに席を譲った女生徒に笑顔と一緒に「ありがとう」



私たちの周りには様々な「ありがとう」があふれていますが、皆さんの「ありがとう」にはどんな思いが込められているのでしょうか。とにかく、1日1回は「ありがとう」と言える機会をつくってほしいと思います。

教育委員会の取組

真美二小（南側校舎）、真美中のトイレが完成！



7月から始められていた真美ヶ丘第二小学校南側校舎及び真美ヶ丘中学校のトイレ改修工事がそれぞれ11月中旬と下旬に終わり、子どもたちはピカピカになったトイレに感激していました。

真美二小や真美中の児童生徒からは、「前のトイレよりもきれいになって行きやすくなった。」「自動で水が流れるようになって、節水ができる。」「自動で電灯が灯り明るい。」「掃除がしやすくなった」などの感想が聞かれました。真美二小の北側・東側校舎1階のトイレは現在改修中で、来年2月には完成する予定です。

左上の写真は、真美二小の男子トイレの表示板、中の写真は、洗浄機付きトイレ、下の写真は真美中の男子トイレの様子です。

裏面へ

GIGAスクール構想を進めています！

奈良県では、国が進める「GIGAスクール構想」を実現するため、県域どこの学校においても同じ学びを受けることができる環境を整えています。現在、広陵町において児童生徒一人一台の端末が納入され、今後その端末を活用した授業、学力調査、家庭学習など子どもたちの学習に活かせるよう町教育委員会と各学校のICT教育を推進しているエバンジェリストで構成するGIGAスクール構想推進委員会で逐次検討しています。

広陵町では、端末(chromebook)を自宅に持ち帰ることを前提に、鉛筆やノートと同様の「新しい文房具」と位置づけ、授業や家庭学習、家庭との連絡ツールに活用してもらう予定で、現在、その準備として、使い方やルールの説明等を協議しています。特に、直近では、端末を使用する奈良県が実施する小学6年生の学習到達度調査に向け、各学校と調整を図っています。また、各学校におけるWifi環境の整備工事も同時に進めており、一日でも早く子どもたちに端末が行き渡り、端末の操作に慣れるとともに様々な学習に活用してもらえるよう進めています。



お知らせ



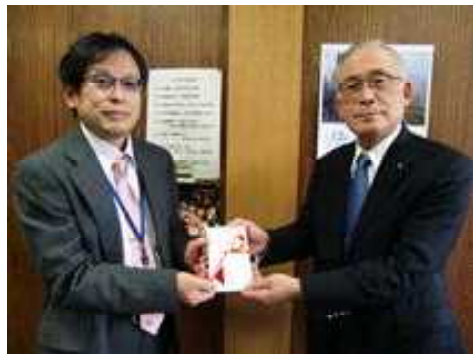
大和高田ロータリークラブさんより

譜面台購入の補助金をいただきました！

大和高田ロータリークラブは、今年創立60周年を迎え、記念事業の一環として10月に音楽祭を企画され、昨年に広陵中学校の吹奏楽部に出演依頼されていました。しかし、コロナ禍の影響でその音楽祭は白紙となり、演奏もできなくなりました。

そのような中、ロータリークラブの理念の一つに、次代を担う青少年の育成があり、そのことから、予算化された記念事業費の一部を出演依頼されたそれぞれの団体に対して、活動に役立つものを贈ろうと企画されました。そのご厚意を広陵中学校の富田校長に伝え、吹奏楽部内で何がほしいかを話し合ってもらった結果、吹奏楽部で古くなった譜面台を是非新しくしてほしいとの思いから、その購入の補助に充ててもらうことになりました。

12月1日に大和高田ロータリークラブの創立60周年記念事業委員会の船木委員長と幹事の廣橋さんが教育委員会に来てくださり、富田校長に購入の補助金を贈っていただきました。



スマホ・ケイタイ人権教室が開かれました！

スマホ・ケイタイ人権教室は、奈良県人権擁護委員連合会と奈良地方法務局、ドコモCS関西がタイアップして、スマートフォンやケイタイ、パソコン等の安全な使い方と情報セキュリティについて各学校の児童生徒を対象に教えていただいています。

広陵町では、今年、6月25日に北小学校で、11月20日に東小学校で、そして先日の12月11日に真美ヶ丘第一小学校で開催されました。3校とも、4～6年生が体育館に集まり、生徒指導の先生から人権教室の講師の先生や広陵町人権擁護委員の方々の紹介と授業の流れを説明してもらいました。



ドコモの先生からは、パワーポイントを使っての説明があり、Twitter・Instagram・FacebookなどのSNSに個人情報が入った動画や写真などをアップすることのリスクをお話とアニメーションで

分かりやすく解説してもらいました。

その後、LINE等のコミュニケーションアプリでの文字だけのやり取りに気を付けることとともにフィルタリングの大切さも教えていただきました。

そして、まとめとして、①おうちの人と使い方のルールを作ること ②人を傷つける道具にしないこと ③困ったときには家の人や先生など大人の人に相談することの3つを守ってほしいと話されていました。

また、広陵町人権擁護委員会の代表の方からは、「人権とは、どういうことか。」という問いを出された後、「人権」というのは、誰もが生まれながらにして持っている、人間の尊厳に基づく固有の権利で、自分も、自分以外の人も、すべての人が「人間らしく、自分らしく生きる」ために必要なもので、自分を大切にすること、そして他の人も大切に思いやりのある心をもって生きていくことだと話されました。



また、「人と人がつながるとは、どういうことか。」という問いで、「SNSはとても便利で世界中の人たちと簡単につながることはできるけど、そのつながりはとても浅い。人と人がつながるとは、心と心が通じていること、お互いがわかり合えていることがつながるといことだ」と話されました。そして最後に、「今日のスマホ・ケイタイ人権教室で学習したことをしっかりと日々の生活の中で実行してほしい。」と心を込めて話されていました。

